

石垣島ダムまつり in 名蔵



於茂登御主神

石垣市には於茂登岳に水源を持つ底原、名蔵、大浦、真栄里、石垣の5つのダムがある。このダムまつりは、農業用水源(一部飲料用)としてだけでなく、多面的な機能のPRを目的に7月7日(日)名蔵ダム周辺において開催され、今年で8回目を迎える。

主催者であるダムまつり実行委員会(石垣市、石垣島土地改良区、県八重山農林水産振興センター)が、名蔵ダム上流にある「於茂登御主神」に水への感謝と安全祈願を行った後、ダムの堤体を関係者がパレードしまつりの幕が開いた。

主催者を代表して中山石垣市長(石垣島土地改良区理事長兼任)が挨拶し、続いて沖縄総合事務局馬場農林水産部長が八重山地域におけるこれまでの国の取り組みについて述べた。玉城八重山農林水産振興センター長の開会宣言の後各種催しがスタートした。



堤体をパレード



5つのダムで取水した水を一つに樽に注ぎ入れ、この水を巫女が祈願しながら周辺に散水した



中山石垣市長



馬場農林水産部長



玉城センター長

ダムをバックに設けられた特設ステージでは石垣第二中学吹奏楽部の演奏やアームレスリング大会、八重山農林高校郷土芸能部による伝統芸能が披露されたほか、今回初めて琉球華僑総会八重山分会青年部による龍の舞れた。



名蔵ダム周辺の生き物展示



龍の舞

周辺施設では、施設見学会やダムのパネル展、生き物展示、お天気コーナー等が設けられ多面的機能をアピールした。

また、ダム湖面においては、共催の八重山ウェイクボード協会によるクラス別のウェイクボードコンテストが開催され、ダイナミックなジャンプで会場を沸かせた。

飲食ブースは、青少年育成を目的に、八重山農林高校や地域の少年野球・サッカー・バスケットボールなどの父母会が出店し、子供達が元気な声で呼び込みを行っていた。

父母会による飲食出店



子供達はゴミの分別回収にも協力。環境の保全・美化に努める。